

「岩手大学農学部・東京農工大学農学部共同獣医学科」設置概要

1. 設置年月日、学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 設置年月日

平成24年4月1日

(2) 学部・学科等の名称

岩手大学農学部・東京農工大学農学部共同獣医学科

(3) 授与する学位の名称

学士（獣医学）

学位記は、両大学長の連名によるものとする。

(4) 学生定員

両大学の学生定員を合算し、1 学年 65 名（岩手大学 30 名、東京農工大学 35 名）とし、6 学年の総学生定員数は 390 名とする。

2. 設置の趣旨及び必要性

(1) 我が国の獣医学教育を取り巻く環境

近年の食の安全確保、人獣共通感染症への対応、獣医療ニーズの多様化・高度化などへの対応がせまられている。世界の獣医学教育の潮流としては、欧州連合において獣医学教育の大幅な改革により、共通基準と評価のシステムが構築されている。国際獣疫事務局（OIE）は、より専門性の備わった獣医師が生み出せるように獣医学教育を変えていくことを目的として、2010 年に「高品質な国の獣医サービスを提供するために必要な最低限の獣医学科卒業生が身につけるべき資質」を策定し、獣医学教育の国際基準について検討がなされるなど、防疫需要等の増大に対応しうる国際的通用性を備えた人材の養成が求められている。

グローバル化する知的基盤社会の中で、国際的通用性を備えた質の高い教育を行うことが必須であり、特に、教育の質の保証の観点から、医学、歯学、薬学等、他の医療系専門職の養成機関においては、全ての学生が履修すべき必要不可欠な教育内容を整理したモデル・コア・カリキュラムが作成されるなど、教育課程の充実方策の検討が進められている。

このような背景のもと、文部科学省の「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」において獣医学教育の充実の検討が行われ、獣医学教育は獣医師としての高い倫理性と論理性を兼ね備えるとともに、高度専門職業人としてのスキルを身につけた人材養成が必要となってきた。

(2) 獣医師に対する社会的需給

「獣医師の需給に関する検討会報告書（農林水産省、平成 19 年 5 月）」において、伴侶動物の診療獣医師数は、ほぼ充足かやや過剰とされているものの、獣医療技術の高まりに伴うイヌ、ネコの高齢化、コンパニオンアニマルとしてのイヌ、ネコの健康管理に対する飼育者の関心の高まりなど、基幹病院としての大学附属動物病院の機能付与などによる、高度な先端の医療技術開発のニーズが高まってきている。また、産業動物診療の獣医師数は約 600 名程度不足し、家畜衛生や公衆衛生分野における公務員獣医師数は、その定員数に変化はないとしても、退職者数をカバーできない新規就業者数で推移し、慢性的な要員不足に陥るとされており、獣医師の職域偏在化の是正が求められている。さらに、口蹄疫対策検証委員会報告書（農林水産省、平成 22 年 11 月 24 日）においては、産業動物に対する獣医学教育でその意義や魅力についての教育機会が少ないこと、大学での実習や卒業後研修が不十分であることなどの教育システムの不備から獣医師の職域偏在化が進んでおり、獣医学系大学における産業動物に関する実習の強化、研修の強化などにより産業動物に関する獣医療体制を実効あるものとするように強化推進すべきとの指摘がなされた。

また、文部科学省の獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議においても、

- ・社会ニーズに対応した人材の高度化
- ・獣医師養成における国際通用性の確保
- ・我が国の大学教育改革を踏まえた対応

などが、今後の獣医学教育に必須であると指摘しており、その改善の具体的方策の一つとして、専門職業人としての獣医学教育の標準化を図るため、わが国の獣医学教育で目指すべき理念、目的を明確にし、すべての獣医系大学で共通して教育すべき到達目標・内容を整理したモデル・コア・カリキュラムを策定し、教育内容・方法の改善を促進するよう報告している。

こうした現状分析や内外の動向を踏まえ、獣医学教育の諸課題等を解決するために、東日本における産業動物獣医療の教育に実績を有する岩手大学と首都圏を中心とした伴侶動物獣医療の教育の実績を有する東京農工大学は、協力して共同獣医学科を設置し、一大学では成しえることができない臨床分野や公衆衛生分野の強化をはじめとする複雑化・高度化する獣医療に対応した実践的な獣医学教育と、「獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに関する調査研究委員会」が策定した獣医師国家試験科目である 18 科目を包含したモデル・コア・カリキュラム（平成 23 年度版）を基盤とした獣医学教育を実施することにより、高度な知識と技術を併せ持った、国際的通用性のある獣医師を養成するものである。さらに、既に獣医師として活動する者に対する卒業後教育を充実させることにより東日本地域における獣医師の資質や能力の高度化を図るものである。

3. 学部・学科の特色

岩手大学は、日本有数の畜産物生産基地である東北に位置し、高度産業動物獣医療の実践という特色を持つ。一方、東京農工大学は首都圏に位置し、伴侶動物の高度獣医療の実践という特色を持つ。このことは附属動物病院における動物の診療件数に明確に表されており、平成 22 年度の診療頭数は、岩手大学においては伴侶動物 2,400 頭、産業動物 600 頭であるのに対し、東京農工大学では伴侶動物 7,600 頭、産業動物は 7 頭となっている。

また、岩手大学においては、平成 18 年度に設置した「農学部附属動物医学食品安全教育研究センター」の 4 つの部門（研究プロジェクトと教育プログラムの企画調整を担う「企画調整部門」、家畜の生産に関する「動物性産科学部門」、食料生産動物の疾病制御に関する「食料生産動物医学部門」、畜産物の安全管理に関する「食品安全科学部門」）に加え、平成 23 年 4 月に、口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなどの伝染性疾患に対し、統計学的手法、数理モデルなどを駆使して、疾病の発生・拡大に影響を与える要因を同定し、感染症流行時などその問題に対し緊急の対応が必要とされる場合に迅速に活動を行い、危機管理を行う「実地疫学部門」を設置した。

一方、東京農工大学においても新たに農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センターを平成 23 年 4 月に設立した。そのセンターには、国内外の研究プロジェクトと教育プログラムの企画調整を担う「企画調整部門」、口蹄疫等重要家畜伝染病の発生状況調査及び常在地での共同研究を担う「重要家畜伝染病研究部門」、口蹄疫等重要家畜伝染病発生国における感染ルートの調査・研究を担う「伝染病疫学解明部門」、国内外の畜産形態の調査及び家畜伝染病発生時における被害額予測及び対処方法を担う「家畜感染症経済分析学研究部門」の 4 部門を設置し、共同獣医学科各研究室との密接な連携の下、国内外における重要伝染病や一般感染症の防疫に関する研究・教育を遂行する。

東京農工大学農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センターの重要家畜伝染病研究部門などの 3 部門及び岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センターの実地疫学部門並びに両大学の公衆衛生と伝染病に関わる教育資源を結集することにより、フードチェーンシステムに基づく食品の安全確保、大規模な家畜伝染病発生時の防疫活動を実現するための、体系的かつ実践的な獣医公衆衛生学教育・実習が構築できる。

本共同獣医学科は、今後供給が不足する産業動物に関わる家畜衛生や公衆衛生分野における獣医師養成の

強化と、伴侶動物等に関わる高度獣医療技術の習得を強化するため、東日本に位置する岩手大学と東京農工大学がこれまでの実績を活かし、東日本における獣医学教育の拠点として獣医師の養成に努める。また一方で、東日本における卒後教育の場として、「動物病院」、「動物医療センター」、「動物医学食品安全教育研究センター」及び「国際家畜感染症防疫研究教育センター」の専任教員を活用した獣医師の技術力と獣医学教育における専門知識の高度化を図る。

4．教育上の理念及び養成する人材像

本共同獣医学科では、「人類と動物の健康と福祉に貢献する」ことを理念に掲げ、日本や世界における喫緊の共通課題を解決させるため、以下の人材を養成することを目的とする。

獣医師としての任務を遂行するため、高度な専門的知識のみならず、低学年次からの導入教育により論理性や倫理性を兼ね備えた高い行動規範を持つ人材を養成する。

動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する実践力を兼ね備えた、基礎的な知識・技能を持つ人材を養成する。

生命現象の解明を基盤とする生命科学や応用開発等において、獣医学を基礎とした問題解決能力を持つ人材を養成する。

地球規模での感染症や畜産物の安全確保などに対して貢献する、知識・技能を持つ人材を養成する。

上記の人材養成目的を実現するために、獣医師として職務遂行上、最低限共通的に求められる基礎的な知識・技能の養成に加え、専門分野・職域別に求められる実践的な知識・技術を習得させるため、4 年次後期からの高学年次を対象に基礎、病態と応用部門を包含した先端生命科学、並びに小動物及び大動物臨床における高度獣医療の専修コースを設定し、獣医学演習及び卒業研究において、それぞれの専修分野に応じた高度専門教育と実技などの習得を重点的に行うことにより、卒業後における獣医師としての高い能力を涵養し、実践に即した獣医学教育を推進する。

5．教育課程の編成の考え方及び特色

本共同獣医学科では、「人類と動物の健康と福祉に貢献する」ことの実現するために、教育及び到達目標が同一である、1) 共通教育科目、2) 専門教育科目、3) 専修コース及び4) 卒後教育に体系化して教育課程を編成する。共通教育科目の履修に関しては、岩手大学教育総合センター及び東京農工大学大学教育センターが中心となって、全学的体制により実施する。専門教育科目においては基盤獣医学科目、実証獣医学科目、選択科目、専修科目に分類する。基盤獣医学科目には、基礎獣医学科目群、病態獣医学科目群、応用獣医学科目群が、実証獣医学科目には小動物臨床獣医学科目群と大動物臨床獣医学科目群から構成される。

なお、共同教育科目として岩手大学開講分として 22 科目 41 単位、東京農工大学開講分として 23 科目 41 単位を設定し、54 科目 76 単位はそれぞれの大学で開講する通常科目とする。

本編成方針をもとに、1) 共通教育科目では、獣医学の基盤となる高等動物の生命科学に対する知識とともに、人文社会科学の諸分野の課題について学ぶ。

2) 専門教育科目では、獣医師として必要な専門的知識を習得させるため、次の教育科目を修得する。

基礎獣医学科目群では、獣医師の任務を遂行する上で必要な倫理性及び論理性を涵養し、獣医学の根源をなす生命の基本的な成り立ちを分子レベルから個体レベルに至るまで理解することを目的とする。

病態獣医学科目群では、動物の病的な状態がどのようにして発生するかを理解し、生体の恒常性を乱す多様な外的要因(細菌、ウイルス、真菌、寄生虫等の病原体)などについて分子から個体に至る様々なレベルで理解する。

応用獣医学科目群では、動物とヒトの疾病予防の方策を理解し、ヒトの健康(公衆衛生)と、動物

の疾病予防（動物衛生）を実現するための能力を身につける。

小動物・大動物臨床獣医学科目群では、各種動物の疾病的確な診断、治療及び予防を実現する能力を涵養すると同時に、実践的参加型臨床実習により、高度化する伴侶動物獣医療と産業動物獣医療に必要な知識・技術を身につける。

これらはモデル・コア・カリキュラムに準拠した編成とするとともに、特に公衆衛生と臨床獣医学教育科目を充実する。公衆衛生学教育においては食品安全管理学や新たに加えた国際感染症制御学を開講することにより、食の安全と家畜伝染病の制御法に関する知識の習得と深化が図られる特徴がある。臨床教育においては小動物と大動物臨床の専任教員を配置し、地域との連携のもとに実践的参加型臨床教育 6 単位を新たに展開する。

また、3) 専修コースにおいては、卒業後の進路希望に応じて当該分野の専門的知識と技術力を高める。

4) 卒業教育においては、附属動物病院における研修医制度並びに付属施設を有効に活用した研修制度を有機的に展開する。

開設科目については、必修、選択とし、卒業に必要な取得単位数は両大学ともに同じとする。

1) 共通教育科目（必修 19 単位、選択 25 単位）

獣医師には、地球上全ての動物生命の健康と繁栄に責任を負う自然科学としての獣医学を背景とし、論理性及び倫理性を兼ね備えた高い行動規範が求められる。共通教育科目は、その基盤となる基礎的知識の習得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起することで幅広く深い総合的な判断力を培い、獣医師として豊かな人間性を涵養することが目的である。共同獣医学科における共通教育科目は、「大学教育導入科目群」、「スポーツ健康科目群」、「外国語科目群」、「人文社会科学科目群」、「理数系基盤科目群」及び「配置大学特色科目群」によって構成され、獣医学を学ぶに必要な基礎的知識を習得させるものであり、それぞれの大学で開講する。

2) 専門教育科目（99 科目、必修 152 単位、選択 6 単位、1~6 年次開講）

獣医師は、飼育動物に関する診療及び保健衛生の指導その他の獣医事を司ることによって、動物に関する保健衛生の向上及び畜産業の発展を図り、併せて公衆衛生の向上に寄与することが求められている。共同獣医学科においては、多様化する獣医師の職務を遂行する上で必要な知識・技能を習得させることに加え、専門分野・職域別に求められる実践的な知識・技能を養成し、日本及び世界における喫緊の共通課題を解決する能力を有し、社会に貢献する獣医師に必要な基盤を涵養する。

以上のカリキュラムに加え、4 年次後期からの高学年次には、卒業後の進路選択をする上で有用な基礎的知識と技術、問題解決能力のスキルアップを図るため、獣医学演習や卒業研究を行うにあたり、基盤獣医学科目を教授する教員が指導する先端生命科学（基礎、病態、応用分野）及び実証獣医学科目を教授する教員が指導する高度獣医療（小動物臨床、大動物臨床）の 2 専修分野を設置し、学生が両大学の専修分野を選択することを可能とするなど、一大学では成しえなかった獣医学教育をより高度化し、実践できる体制とする。

参加型実習を有効に実施するために、総合参加型臨床実習において、附属動物病院内に必要な備品などを整備し、疾病診断プロセス、臨床検査などの一連の診断・治療過程が体得できる体制を構築する。また、岩手県獣医師会や NOSAI 東北家畜臨床研修センターなどと連携し、実習プログラムに沿った臨床例の情報を集積することにより、近隣フィールドを活用した、少人数の班編制での密度の高い実習を行い、より実践的な教育を実現するために見学型実習から参加型実習への具体化を推進する。

6. 教員組織の編成の考え方及び特色

獣医学教育・研究を体系的に実施し、高度な専門的知識と実践力などを併せ持った国際的通用性を有する獣医師を養成するための教員組織は、それぞれの教育・研究分野を遂行する際の必要性を鑑みて、62名の専任教員（岩手大学28名、東京農工大学34名）を分野毎に配置する。また、実践的参加型臨床実習などの不足する分野については、一部、非常勤講師で対応する。

7. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

本共同獣医学科における教育科目としては、共同教育科目とそれぞれの大学で開講する通常科目で構成する。また、履修指導である講義、実習を行うに際しては、共同教育科目では教員が他方の大学に移動して教授する、学生が他方の大学に移動して講義、実習を受ける、対面講義と遠隔講義の同時開講により教授するという3形態に分類した。通常科目においては、両大学の教員が分担して教授する、両大学の教員が別々に教授するという形態に分類した。

共同教育科目の教育方法において対面講義と遠隔講義の同時開講により教授することについては、基本的には自大学で15回の講義を行い、講義する大学から他大学へは、リアルタイムの遠隔授業システムを用いて実施する。遠隔授業システムはSINETを用いたテレビ会議システムによる同時配信によって実施する。また、講義が一方通行となることを予防すると同時に、学生の出欠管理をするために、着席したままボタン操作で教員あるいは学生双方からの質問も受けられ、在席管理もできるような双方向性システムも導入することで、教育効果を高める工夫を考慮する。使用した教材は、学生のコンピューターにダウンロードできるようにする。

すべての履修科目は、学生が所属する本籍大学で受講することを原則とするが、他方の大学で開講されている科目を受講して単位を取得することも可能とした。

開講科目は必修、選択に分類して、卒業に必要なそれぞれの単位数を設定した。

教授科目の配当年次として、1、2年は共通教育科目を重点的に履修するが、1年次には獣医学に関する導入・基礎科目も教授する。2年次には獣医基礎科目を重点的に教授し、3年次から4年次前期には応用獣医学、病態獣医学科目、4年次と5年次には臨床獣医学科目を重点的に教授する。6年次には総合参加型臨床実習及び卒業研究を重点的に教授する。

履修指導は両大学ともに学年ごとのクラス担任を設け、履修方法などについてきめ細かな指導ができる体制を構築する。

卒業要件としては6年間で202単位とし、共通教育科目から必修19単位、選択25単位の計44単位を習得するとともに、専門科目から必修152単位、選択6単位の計158単位を習得する。

8. 入学選抜の概要

(1) アドミッションポリシー

獣医師は、人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、本共同獣医学科は、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、生命科学の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を養成することを設置基盤としている。そのために、本共同獣医学科では、次の能力・資質を備えた入学者を国内外から求める。

獣医師としての目標を持ち、獣医学の発展に貢献しようとする意欲を持つ者。

自然や生命現象に関心を持ち、それを探究しようとする意欲を持つ者。

獣医師として、国際的な交流・協力を推進し、世界に学び世界に貢献しようとする意欲を持つ者。

常に自己を啓発し、実行力に優れ、社会で貢献しようとする意欲を持つ者。

課題を探究し、問題を解決する意欲を持つ者。

(2) 入学選抜の方法

本共同獣医学科では、一般選抜、推薦入試、学士編入学選抜によって、入学者の選抜を行う。入学時期は4月とし、入学者選抜は秋季から冬季にかけて実施する。一般選抜、推薦入試、学士編入学試験については当該学生の本籍を置く大学の入学者選抜要領に基づいて実施する。

「今後の獣医学教育の改善・充実方策について」意見のとりまとめ(概要)

- 平成23年3月 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 -

1. 獣医学教育を取り巻く状況の変化

→ 現場の最前線で活躍できる高度な実践力を備えた獣医師の養成が、獣医学教育の喫緊の課題・責務

社会ニーズに対応した人材の高度化(口蹄疫や鳥インフルエンザ・BSE等の発生、獣医療の多様化・高度化) 獣医師養成の国際的通用性の確保(国際獣疫事務局において獣医師が備えるべきコンピテンシーリストが検討) 我が国の獣医師の現状を踏まえた対応(産業動物分野等の魅力向上、高度な実践力を有する獣医師養成が必要) 我が国の大学教育改革を踏まえた対応(高等教育の質保証が重要な課題、医学等における質保証の取組例)

平成16年7月の「国立大学における獣医学教育の充実・改善方策について」を踏まえた各大学の取組の成果の検証と、更なる検討の必要性。

2. 獣医学教育の各分野の現状と課題

平成21年3月「教育内容に関する小委員会」を設置し、16大学の教育内容・教育研究体制を分析

最低限共通的に教育すべき内容を十分に教育できていない大学がある。
新たな分野(獣疫学、動物行動治療学等)への対応が十分取れていない。
将来のキャリアと学びを関連づける教育に課題がある。
獣医師として求められる実践的な力を育む教育(実習科目や応用系・臨床系の講義科目等)に課題がある。
大学ごとの分析として獣医師養成課程の規模の小さい大学に課題が多い。

3. 獣医学教育改善・充実の基本的方向性とその具体的方策について

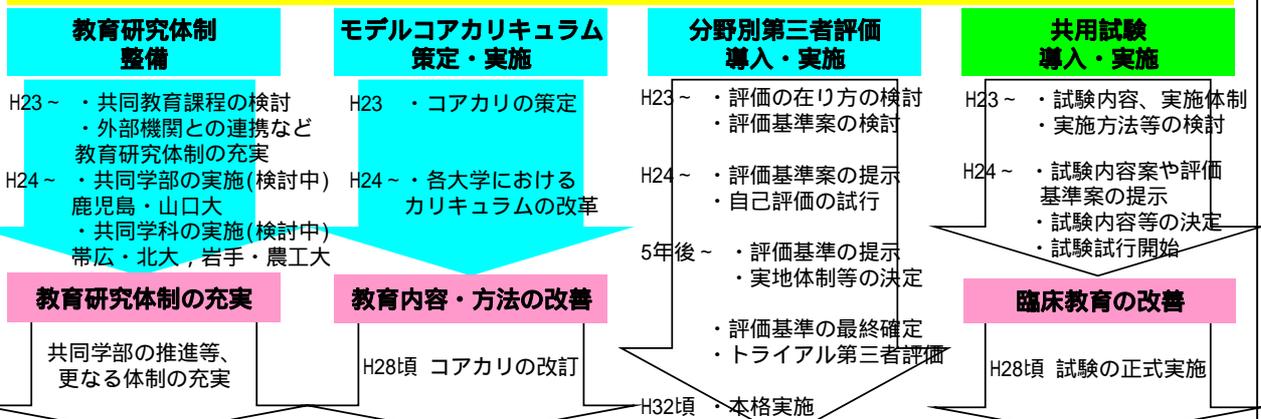
⇒ 以上の課題を解決しつつ、国際水準の教育を実現するためには、全国の獣医学関係者の総意のもと教育改革の取組をスピーディーに推し進めることが必要。

モデルコアカリキュラムの策定等による教育内容・方法の改善促進
自己点検・評価の実施や分野別第三者評価の導入など、獣医学教育の質を保証するため評価システムの構築
共同学部・共同学科の設置など大学間連携の促進による教員の確保を含めた教育研究体制の充実
実習室等の教育環境及び附属家畜病院の充実や、外部専門機関等との連携による臨床教育等の充実
共用試験の導入に向けた検討(診療行為に参加する学生の事前評価について社会的信頼を得る仕組みを構築) など

国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革工程(イメージ)

工程に示した期間は、医学・薬学等の事例を参考にして、あくまで目安として示したもの

H23 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議による提言



充実した獣医学教育の実施、自律的な教育改善を促す質保証システムの構築
各大学の取組の成果を検証し、結果を公表するなど、その確実な取組を推進していく必要

国際水準の獣医学教育の提供